

# SUPER GT 2025 Rd.04 FUJI GT SPRINT RACE

Qualifying / Race2

Race1 の不振を抜け出すためにさまざまな対応を行なったが予選では 18 位、決勝レースでも挽回できず 16 位に終わる

日付：8 月 3 日（日曜日）

天候：晴れ

コース：富士スピードウェイ

3 日：（予選時）

気温：33℃、路面温度：50℃

SUPER GT 2025 SERIESの第4戦となる「FUJI GT SPRINT RACE」が8月2日（土）－3日（日）の2日間に掛けて富士スピードウェイで開催された。

今回はSUPER GTの公式戦では初採用となるスプリントレースで、2日にはRace1、3日にはRace2を実施。それぞれ日に公式練習と予選、決勝レースがあり1人のドライバーが通して担当し、週末で2レースを行なう新たな試みとなった。

第3戦は6月末にマレーシアのセパン・インターナショナル・サーキットで開催されたため、今戦まで2ヶ月にインターバルがあった。だが、マレーシアからSyntium LMcorsa LC500 GTを輸送していたため、LMcorsaのファクトリーにマシンが戻ってきたのは7月末。わずか数日の間に第4戦の準備を整えてサーキットへ向かった。

迎えたRace1は早朝から公式練習と午前中に予選、15時15分からGT500、GT300クラスの混走による35週の決勝レースが行なわれた。マレーシアの雪辱を果たしたいLMcorsaだったが、今回も持ち込んだタイヤの性能を引き出せない展開が続いた。公式練習こそトップ10に入る結果を得たが、予選では17位、決勝レースでも18位となり15位以内に与えられるポイント圏内を逃してしまった。

2日目となるRace2も昨日とほぼ同じタイムスケジュールで、早朝から1時間の公式練習があり、11時から予選、決勝レースはRace1と異なりGT500とGT300クラスが独立していて、GT300クラスは14時15分から50分間のタイムレースで競われた。



## SUPER GT 2025 Rd.04 FUJI GT SPRINT RACE

Qualifying / Race2



チームは、初日となったRace1を河野駿佑選手に託し、Race2は吉本大樹選手が担当した。8時30分からスタートした公式練習では、Race1の結果を踏まえてタイヤのグリップ性能を引き出すことに注力。セットアップを替えるためにピットインを繰り返し、最適な状況を探っていった。ただ、セットアップの変更によりマシンの反応はあるもののグリップレベルはそれほど変わらず、18周目にマークした1分37秒771がベストタイムとなり28台中13番手の結果となった。

### <予選>

公式練習の終了から予選が始まるまでに1時間半の猶予があり、その間もチームは打開策を探して対策を施した。

Race2の予選もGT300クラスのマシンが一斉に競う形式となり、11時から11時20分の20分間が与えられた。吉本選手は開始から10分が経過したところでコースに入り、4周を掛けてタイヤやブレーキなどに熱を入れてウォームアップを実施。そして、計測5周目に1分38秒756をマークすると翌周もアタックを続け、セクター1から3まで着実にタイムを削り1分38秒390までタイムを伸ばした。しかし、公式練習時のベストタイムには届かず18位という結果となった。





## SUPER GT 2025 Rd.04 FUJI GT SPRINT RACE

Qualifying / Race2



### <決勝レース>

50分のタイムレースとなったRace2は、GT300クラスの28台のみが2列縦隊を組み、14時15分にフォーメーションラップでスタートを切った。18番手からスタートした吉本選手は、1コーナーで加速に勝る96号車のRC F GT3並ばれ、そのタイミングで同じマシンの26号車にも先行された。しかし、セクター2で2台が後退したことにより1周目をポジションキープの18番手で通過。翌周には、オープニングラップで抜かれた26号車をパスして17番手に浮上する。5周目にはトップ10内を走っていた61号車がストップしたために16番手となるが、6周目には最後尾から追い上げてきた56号車のGT-Rに抜かれて17番手となった。10周目までは1分39秒台で走行し、ポイント圏内の15位以内が見えるポジションでの走行となる。しかし、13周目以降は1分40秒台にラップタイムが落ち、前を走っているLamborghini GT3から離されていく。後続とは2秒ほどの差があり単独での走行が続く。通常のレースではGT500クラスのマシンと混走なので、周回遅れとなるタイミングで前後の差が縮まることがあるが、今回はGT300の単走となりその機会がない。そのため、単純にマシンのポテンシャルがあらわとなった。



## SUPER GT 2025 Rd.04 FUJI GT SPRINT RACE

Qualifying / Race2

レースが折り返しとなる15周以降はラップタイムの落ち込みがなかったが、先行しているマシンの背後には迫れない。終盤もポジションをキープした吉本選手は、31周目に17位でチェッカーを受けてRace2を終えた。正式結果では先着していたマシンにタイムペナルティが与えられたため16位となったが、2レースともにポイントを獲得できない厳しい展開となった。

### Team comment



#### Driver : 飯田 章

Race2も公式練習ではライバルに対して悪くない立ち位置でスタートしました。しかし、予選になるとタイムが伸びないのは昨日と同様で、決勝レースは18番手グリッドになりました。サクセスウエイトを積まないマシンのパフォーマンス勝負で、GT500クラス混走でないためラップダウンもありません。その中で順位変動も少なく、辛いレースとなってしまいました。ドライバーもチームも頑張っているのですが、2日連続して残念な結果です。応援してもらっているファンやスポンサーにも申し訳ありません。何かしらの原因はあるので、しっかりと検証して次戦の鈴鹿サーキットに挑みます。



#### Driver : 吉本 大樹

河野選手が戦ってくれたRace1の結果やマシンの状況を確認してできる限りの対策を施しました。問題となっているのはタイヤのグリップを発動させられないことで、チームと試行錯誤しながら公式練習を走りました。ただ、大幅な変化はなく、予選ではRace1のように公式練習よりタイムが落ちてしまいました。決勝レースでは何とかポイント圏内を目指して走っていますが、13番手争いをしていた集団の後ろにはいました。それでも追いつくことはできませんでした。望んでいない結果が続き残念ですが、チームとともに打開策を見つけたいです。次戦の鈴鹿サーキットは5月にテストがあり、そのときは好感触を得ています。ホームコースなので、是非とも巻き返したいです。